

就労定着支援事業開始前後の引継ぎの重要性が認識されたケース

圏域	柏		センター名		ビック・ハート柏		
氏名	O・N		居住形態		家族同居 GH 単身 その他		
手帳種別及び等級	療育手帳 B-2		年齢	25歳	性別	女	
成育歴および現在の生活状況	父、姉、本人、妹の4人家族。 中学生時代はいじめに遭い引きこもり気味であった。 3年生から午前中のみ特別支援学級に通い、高校は特別支援学校を卒業した。 特別支援学校を卒業後、就労移行支援事業所BであるW事業所を利用開始。						
就業前の訓練事業所	W事業所	サービスの種類	就労移行支援事業所	期間	1年6か月		
就職先	Y社			入社日	H30.4		
業務内容	病院内厨房における下膳・洗浄作業						
就業先企業情報	業種：医療機関における調理等 従業員数：600名 障害者雇用歴：有 その他：障害者雇用への理解があり、協力的である。						
就業前の課題	意思疎通が難しい。環境の変化が苦手で、突発的に物事を決めてしまう傾向にある。						
就労定着支援個別支援計画	-						
課題解消に向けた支援体制							
障害者就業・生活支援センターと就労定着支援事業所間の連携経過	特別支援学校卒業時にナカポツセンターに登録していたケースで、就業先もナカポツセンターが開拓した企業であるため、就業時からスムーズな連携が図れている。 意思疎通の難しさに関しては、慣れるまでの期間はW事業所担当の職員からの声掛けのみにして頂いた。 環境の変化については、見通しを立てることで安定する傾向にあったため、1か月先までのロードマップを定着訪問時にO・N、W事業所、ナカポツセンターの3者で作成した。						

具体的支援経過	H30.5	O・Nから突然退職の意向を伝えられたと、W就労移行支援事業所より連絡がある。
	以降	月1回の定着訪問とW事業所のみでの週1回の面談。
	H30.8	定着訪問時にO・Nから仕事に対して前向きな話が挙がる。
	H30.10	体調は安定してきたものの、仕事のリズムについていくことが出来ないという相談があり、週5日から週4日勤務へ変更した。
	H30.11	安定傾向にあることから月1回の訪問から3か月に1回の訪問へ変更。H31.2の訪問よりW事業所のみでの支援とした。
現在の状況及び支援効果	<p>元々の作業性の高さを活かして戦力としてY社から重宝されている。</p> <p>当初はO・Nの障害特性の理解が出来ていなかったY社の従業員も現在では理解し、関係性も良好。週4日の勤務を現在も継続しているが、O・Nから週5日に戻したいという希望が挙がっており、順調に勤務を続けることが出来ている。</p>	
障害者就業・生活支援センター側からの支援・連携上の課題	<p>ナカポツセンターの企業支援員が開拓した企業であるため、勤怠の不安定さやY社から挙がっている困りごとが支援の主体であるW援事業所ではなく、ナカポツセンターに入っていた。</p> <p>役割分担については口頭での説明だけでなく、支援経過を表にまとめるなど、視覚的に理解が出来るものを使用した方が良いのではないかと感じた。また、就労定着支援事業終了に伴う引継ぎのタイミングでO・Nのリズムが崩れることが予想されるため、終了よりもかなり早い段階で顔合わせを行う等、ケースに応じた引継ぎタイミングがより重要になると感じている。</p>	
就労定着支援事業所からの要望・意見	-	